

令和5年度全国学力・学習状況調査等の概要

御前崎市教育委員会

「学習」に関する調査結果

御前崎市の平均正答率(全国平均との比較)

小学校6年生		中学校3年生			
国語	算数	国語	数学	英語 (聞く・書く・読む)	英語 (話す)
△	△	○	○	△	△

全国平均正答率と比較して

- ☆ +6ポイント以上
- ◎ +6ポイント～+2ポイント
- +2ポイント～-2ポイント
- △ -2ポイント～-6ポイント
- ▲ -6ポイント以下



国語の結果分析

〈小学校〉

良好 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる問題(思考・判断・表現「読むこと」)

- 課題**
- 文章図で示された情報と情報(語句と語句)がどのように関係付けられ、整理されているかを答える問題(知識・技能「情報の扱い方に関する事項」)
 - 敬語の正しい使い方を答える問題(知識・技能「言葉の特徴や使い方に関する事項」)

分析
メモ

小学校、中学校ともに知識・技能の観点、特に「情報の扱い方に関する事項」が全国と比較して課題が見られます。話や文章に含まれている情報を整理したりその関係を捉えたりすることは、話や文章を正確に理解することにつながります。例えば「原因と結果」「意見と根拠」「具体と抽象」などの関係を理解したり、図などを使って内容を整理したりすることです。それらを実際の話や文章の中で捉えることができるよう、「話すこと・聞くこと」「読むこと」の学習で知識・技能を活用することが必要です。

〈中学校〉

良好 聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめる問題(思考・判断・表現「話すこと・聞くこと」)

- 課題** 文章の内容のまとまりで2つに分かれる箇所を見つけ、見出しを書く問題(知識・技能「情報の扱い方に関する事項」)
- ※「具体と抽象」「意見と根拠」の関係など情報と情報の関係の理解をみる問題

算数・数学の結果分析

〈小学校〉

良好 伴って変わる2つの数量について表から変化の特徴を読み取り、知りたい数を求める問題(知識・技能「変化と関係」)

- 課題** 伴って変わる2つの数量の関係が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を使って説明する問題(思考・判断・表現「変化と関係」)

- (3) いす4きゃくの重さをはかると、7kgでした。このいす48きゃくの重さは何kgですか。求め方を式や言葉を使って書きましょう。また、答えも書きましょう



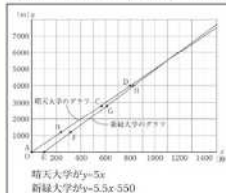
〈中学校〉

良好 数と整数の乗法の計算をする問題(知識・技能「数と式」)

- 課題** 事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを事象に即して解釈する問題(知識・技能「関数」)

②大信さんは、前ページの6区の選手の記録のグラフを見て、点Aから点Dまで、点Eから点Hまでの各点がそれぞれ直線上にあると考えることにしました。そこで、コンピュータを使って、次のような2つの直線に表したところ、それぞれのxとyの関係を表す式は、晴天大学が $y=5x$ 、新緑大学が $y=5.5x$ と表されました。

コンピュータを使って表された直線のグラフと式



晴天大学のグラフと新緑大学のグラフがそれぞれ直線で表されていることは、二人の選手について、次のように考えたこととなります。

晴天大学のグラフと新緑大学のグラフがそれぞれ直線で表されていることは、二人の選手について、が一定であると考えたこととなります。

上のに当てはまる言葉として正しいものを、下のアからオまでの中から1つ選びなさい。

- ア それぞれの走る速さ
- イ それぞれの走る時間
- ウ それぞれの走る道のり
- エ 走る時間の差
- オ 走る道のりの差

分析
メモ

小学校の「変化と関係」、中学校の「関数」の領域の問題に課題が見られました。小学校の「思考・判断・表現」の問題では、求め方を式や言葉で説明することが求められています。正確な計算の技能だけでなく、考え方を説明する力を身に付ける必要があります。中学校では「知識・技能」の問題では、グラフがどのような過程に基づいて描かれているのかを正しく解釈する力が求められています。小学校中学校ともに、数学的な表現を用いて説明する機会を学習の中で充実させていく必要があります。

英語の結果分析

〈聞くこと・書くこと・読むこと〉

- 課題**
- 日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取る問題(思考・判断・表現「聞くこと」)
 - 未来表現の肯定文や、疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書く問題(知識・技能「書く」)

④

①(先生と生徒の会話)

②(友達同士の話)

③(友人と友人の会話)

④(友人と友人の会話)

⑤(友人と友人の会話)

⑥(友人と友人の会話)

⑦(友人と友人の会話)

⑧(友人と友人の会話)

⑨(友人と友人の会話)

⑩(友人と友人の会話)

⑪(友人と友人の会話)

⑫(友人と友人の会話)

⑬(友人と友人の会話)

⑭(友人と友人の会話)

⑮(友人と友人の会話)

⑯(友人と友人の会話)

⑰(友人と友人の会話)

⑱(友人と友人の会話)

⑲(友人と友人の会話)

⑳(友人と友人の会話)

㉑(友人と友人の会話)

㉒(友人と友人の会話)

㉓(友人と友人の会話)

㉔(友人と友人の会話)

㉕(友人と友人の会話)

㉖(友人と友人の会話)

㉗(友人と友人の会話)

㉘(友人と友人の会話)

㉙(友人と友人の会話)

㉚(友人と友人の会話)

㉛(友人と友人の会話)

㉜(友人と友人の会話)

㉝(友人と友人の会話)

㉞(友人と友人の会話)

㉟(友人と友人の会話)

㊱(友人と友人の会話)

㊲(友人と友人の会話)

㊳(友人と友人の会話)

㊴(友人と友人の会話)

㊵(友人と友人の会話)

㊶(友人と友人の会話)

㊷(友人と友人の会話)

㊸(友人と友人の会話)

㊹(友人と友人の会話)

㊺(友人と友人の会話)

㊻(友人と友人の会話)

㊼(友人と友人の会話)

㊽(友人と友人の会話)

㊾(友人と友人の会話)

㊿(友人と友人の会話)

〈話すこと〉

今年度から実施された英語「話すこと」に関する調査は、CBT(コンピュータを使用したオンライン)での実施となりました。学校ごとに実施日が異なるため、結果はあくまでも参考値となります。全国・市ともに平均正答率は低い結果となり、課題が多く見られました。

課題 英語による他者の発言を聞き取り、質問や要望に英語で答えること

→決まった英文を音読するだけでなく、他者と英語でやりとりをする学習が必要です。

「話すこと」調査の問題は5問あります。問題番号の変わる回数には、すべて1問です。解答は、全て英語ではっきりと話してください。

大問1 あなたはオーストラリアからの留学生ソフィアのために動物園へ行く予定をたてました。今日がその当日です。会話が続いていくように、質問に答えたり、あなたの考えを伝えたりしましょう。指示がある場合は、その指示に従って答えましょう。問題は11から14まであります。解答時間は11から13が7秒、14が20秒です。それでは、始めます。

あなた ソフィア

また、ICT機器を活用し、自分が英語で話す声を聞いたり、その様子を見たりする機会も必要です。

分析メモ

英語の調査は中学校3年生で実施しました。「思考・判断・表現」の問題では、目的に応じて聞いたり、必要な情報を聞き取ったりすることに課題が見られました。単純な会話のやり取りだけでなく、目的や状況に応じて聞き分けられる力が必要となります。また、「知識・技能」の観点では、未来表現や過去形の疑問文を正確に書く問題に課題が見られました。会話文の流れに合うように動詞の形を変えたり、必要な語を補ったりして文を完成させるためには、まず前後の対話の流れを正確に捉えなければなりません。その上で判断し、必要な知識を活用する力が求められます。知識や技能を習得する際に、活用する場面を想定した学習計画の設定が必要です。

〈各教科の問題は「国立教育政策研究所HP(<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>)」で見ることができます〉

学習と生活に関する調査結果



学校の授業におけるICTの活用に関する項目

【授業でPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用している児童生徒の割合】

	本市	全国
小学6年	52.4%	28.2%
中学3年	59.5%	28.1%

分析メモ

ICT機器を活用した授業の割合は全国と比べて非常に高い数値となっています。ICT機器の活用により、情報を共有したりプレゼンテーションで資料を提示したりと、これまでよりも学習のバリエーションが劇的に増えています。今後はより効果的な活用を考え、授業づくりを進めていきます。

「早寝・早起き・朝ごはん」に関する項目

【スクラムスクール運営協議会重点項目「早寝・早起き・朝ごはん」肯定的回答の割合】

	毎日同じ時刻に寝ている		毎日同じ時刻に起きている		毎日朝ごはんを食べている	
	本市	全国	本市	全国	本市	全国
小学6年	74.6%	81.0%	92.0%	90.5%	93.6%	93.9%
中学3年	79.2%	78.0%	92.0%	91.3%	90.9%	91.2%

22時前に寝ている児童生徒の割合
※本市独自で実施した質問紙調査の結果

	本市	全国
小学4年	94.3%	85.2%
小学5年	90.7%	78.3%
中学1年	80.9%	49.4%
中学2年	51.7%	32.1%



昨年度と同様に22時前に寝ている子どもの割合は全国と比べて多いことがわかります。睡眠時間は学校での学習や生活に大きく影響します。その他の生活習慣も心身の健やかな成長に欠かせません。今後も学校・家庭・地域で子どもの成長を支えていきましょう。